



宿谷の滝

昭和38年（堀江清一さん提供）

昭和38年宿谷の滝開きの時の写真です。当時は滝の脇にお堂があり、夏場など涼をとる人で賑わっていました。また当時は、水量も豊富であったことが写真からうかがえます。



現在の風景

お知らせ

長い間、広報もろやまの裏表紙の顔として続けさせていただいた毛呂山思い出写真館は、掲載可能な写真が不足しているため、今後の掲載継続が難しくなっています。昭和60年代ごろまでの昔の写真が皆さんの家庭にも眠っていませんか？ 写真を貸していただけの方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎(295) 2112 内線332までご連絡ください。

徒然歳時記

すだれ

夏の電力不足に伴い、電力会社や政府が節電を呼びかけています。そんななか、「よしず」や「すだれ」といった日本古来の暑さをしのぐ道具に注目が集まっています。

そもそも「よしず」と「すだれ」は何が違うのでしょうか。「よしず」は、よく海の家などで見かけるもので、立てかけて使う大きなもの。一般的に葦で作られています。それに対し、「すだれ」は比較的小さめで、竹などで作られており、窓や軒先に吊り下げて使います。日本そばなどが乗せてあるものや手巻き寿司を巻く道具も「すだれ」といいます。

「すだれ」の起源は古く、『万葉集』の時代に遡ります。平安時代には、貴族の住宅に間仕切りがなかったため、外から中が見えないよう目隠しのために「すだれ」が使われ、当時は御簾と呼ばれていました。御簾は、清少納言の『枕草子』にも登場し、風流なものとして扱われています。そして、貴族たちの間で使われていた「すだれ」が、一般の人たちにも広まったのは、室町時代と言われています。

「すだれ」の材料には、竹だけでなくハギ、ヨシ、ゴギョウなどが使われることもあります。材質によって色合いや編み方に違いが生じ、光を遮断する度合いや、風通しの具合などさまざまな種類があります。

日本では、「すだれ」や「よしず」の他にも、打ち水や風鈴など、昔から涼をとるために様々な方法がとられてきました。昔と今では、夏の暑さに違いはありますが、先人の知恵をお借りして、少しでも節電に努めて、この夏を乗り切りたいですね。

被災された方がたに広報としてできることはないか？ 自問を続けた結果、6月号の「広報もろやま」から表紙はその月に取材に行き会ったとびきりの笑顔をお届けすることにしました。一人でも多くの方が笑顔になれるように、願いを込めながら、これからも広報紙を作成していきたいと思っております。(1)



わがやのアイドル



川崎 柚希ちゃん (10か月)

ハイハイが出来るようになり自由に動いてイタズラを沢山しています。

もう少しで1歳。柚希と手をつないで歩くのが楽しみだよ。これからも柚希スマイルでみんなを元気にしてね。



幾嶋 大地くん (5歳10か月)

心くん (2歳11か月)

あんちゃん大好きなしんは大地が自転車に乗ると、三輪車で追いかけます。なんでもまねっこ。髪型もまねっこ。いつまでも仲良くね。

■ 秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
申・問 役場秘書広報課 ☎(295) 2112 内線332

人口 36,370人 (+39人)
【男 18,104人 (+8人) 女 18,266人 (+31人)】
世帯 15,813戸 (+27戸)
※平成23年7月1日現在(カッコ)内は前月比

広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。